

<監督及びキャプテンのコメント>

■弓岡敬二郎監督（愛媛 MP）

チームの特徴は、去年と同様、守りを中心にやっていきたい。昨年のレギュラーが半分以上いなくなり、若い選手がレギュラーを争い、フレッシュさが溢れた試合ができるのではないかと。既存の選手と競い合ってもらいたい。チームとしての目標は2連覇とNPBへ選手を送り込むこと。

■鶴田都貴キャプテン（愛媛 MP）

2連覇を目指してチーム全体で頑張っていく。4年目なので、新人の選手を引っ張っていく。

■西田真二監督（香川 OG）

今シーズンのガイナズは育成元年。この点はぶれることなく目標を実現化していく。うまくいかないことがあっても、これを乗り越えるためにさらに頑張っていくスピリッツを大切に、戦える集団になって欲しい。若い選手には自立性をもって行動を大切にもらう。

■宗雪将司キャプテン（香川 OG）

チームスローガンが力戦奮闘なので、一戦一戦頑張りたい。チームとしては独立リーグ日本一になれるように取り組んでいく。昨年足りなかった「あと一步」が何なのかを自覚し、それを若い選手たちに伝えながら頑張っていく。また、自分は何のために独立リーグで野球をやっているのかということをしかりと認識し、今年も、自分を含め、チームから沢山NPBへ行けるようにしたい。

■中島輝士監督（徳島 IS）

主力となるような外国人選手が沢山入団したが、勝負のカギを握るのは日本人選手。理想は打ち勝つ野球。昨年は優勝チームから大差をつけられたので、今年は最後まで優勝戦線に絡めるよう、チーム一丸となって取り組んでいきたい。

■小林義弘キャプテン（徳島 IS）

新戦力が多い中、一昨年の喜びと昨年の悔しさを知っている数少ない選手として、外国人選手を含めてチームをまとめていきたい。そして、独立リーグ日本一を目指す。キャプテンとして、野球に取り組む姿勢や態度はもちろん、結果も残してチームを引っ張っていきたい。

■駒田徳広監督（高知 FD）

大幅に選手は変わっていないが、中身が変わったチームにするよう選手たちには伝えている。成功する秘訣は、自分を変える事。自分を変えると周囲も変わる。私自身の現役時代、敵地に乗り込んだ時には、ファイティングポーズを取るくらいの気持ちでやっていた。そういう意気込みでやっていきたい。

■河田直人キャプテン（高知 FD）

チームはとても明るい。監督の様に前だけを見て頑張りたい。キャプテンとして結果を出すのは当たり前。それだけでなく、声を出してチームを引っ張れるように頑張る。

<堤 GM 兼編成本部長のコメント>

戦力の底上げを図るために三軍を創設してから間もないが、この数か月の間だけでも、独立リーグ出身選手の野球に対する取り組み方やハングリーさは、既存の選手にも見習って欲しいくらいのもがある。

このような意味で、四国アイランドリーグ plus の選手と定期交流戦で実戦を重ねることによって得られるものは大きいと思う。

独立リーグの選手には、平均的な選手ではなく、守備、足など一芸に秀でた選手を目指して欲しい。

読売巨人軍として、なかなか四国で試合をする機会もなかったため、定期交流戦を通じて、四国の方々と交流させて頂くことも楽しみである。

地域に根差した活動を行っている独立リーグの価値は非常に高い。読売巨人軍としても、地域のファンの皆様との交流に参加し、多くの子供たちに野球選手を身近に感じてもらえるような環境を作っていきたい。